









新石器時代紅山文化の巫「中国史前玉器史」

季感といった人の生死存亡」、禍福壽運を知り、年月日まで言いつてることは神のようであった。鄭のひとは彼を見る

と、皆持物を棄て去つて逃げだした。

神巫

その

一

鄭に神巫があり、心酔し、帰つて壘子に告げた。最初、わたくしは夫子の道を最高の境地に至つたものと

思つておりました。が、ほかにも、そこには夫子の道を最高の境地に至つた者がお

いました。壘子は言つた。『わしは、おまえに、その文を教わせてみる』

人相を占わせたのだ

う。

う。